

## 令和元年度 奈良市立神功こども園 研究実践概要

園長名 鎌田稔子

全園児数 189名

1. 研究主題 生き生きと活動する子どもの育成—様々な人とのかかわりを通して—

2. 研究年度 初年度

## 3. 研究主題設定理由

育てたい子ども像を共通理解していく中で、保育者や友達とのかかわりを喜んだり、自分から遊びに取り組んだり、相手を思いやり気持ちを伝え合ったりして過ごしてほしいという思いがあった。乳幼児にとって人とのかかわりの意味は大きく、それらのかかわりを通して思いやりや気持ちを伝えあうといった姿につながると考えられる。そこで生活や遊びを豊かにし、生き生きと活動するような子どもを育てていくためには、どのような環境構成や援助を行うことが必要か、様々な人とのかかわりに着目して考察していきたい。

## 4. 具体的な研究内容

## ①研究のねらい

様々な人とかかわる中で、それぞれの年齢に合った援助や環境構成を行い、生き生きと活動する子どもの姿につなげる。

## ②研究の重点

- ・育てたい子ども像を職員間で共通理解し、どのようなかかわりからその姿につなげていくことができるかを探る。
- ・様々な人とかかわっていく中で、必要な援助や環境構成について探る。
- ・子どもの姿を読み取るための記録の方法について考える。また、その記録を使い保育者間で話し合い、保育の質に向上につなげる。

## ③活動の方法

環境構成

保育者の援助・意図

記録

## 【保育者とのかかわり】

0歳児 1学期 先生も安心できる人

最も安心できる存在だった保護者から離れ、不安いっぱい泣いていた子どもたち。毎日同じ保育者がかかわるようにし、お腹を満たしたりオムツを替えたりすることで、保護者と同じような安心感を保育者にも覚えるようになった。

気になる玩具を手にとったり保育者の膝で絵本を読んでもらったりすることを楽しいと思う姿にもつながっている。「あっぷっぷ」の絵本では「あっぷっぷ〜」と大きな声で真似したり、体を揺らしながら笑顔を見せ、手を叩いたりして見る姿がある。保育者が読み終わると、指を1本立てて「もう1回」と言ったり、「○○（題名）よんで〜」と読んで欲しい絵本を持ってきたりしている。

同じ保育者がかかわる

生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする

表情や仕草に込められている思いを受け止める

## 〈考察〉

- ・特定の保育者がかかわりを持ち、食事、睡眠、排泄等の生理的欲求を満たしていくようにすることで、心地よさや保育者への信頼を感じ、安心した園生活を送れるようになった。言葉かけや表情を豊かにかかわり、子どもが笑い返したり玩具を触ったりしようとする姿にもつながっている。

- ・一人一人の生活リズムや発達を大切にし、子どもの姿に応じたかかわりをすることによって、安心して過ごせる場になってきた。生活面だけでなく、遊びの中でも保育者のことを信頼し、思いを伝えられる人として、絵本の内容を繰り返したり「もう1回」と伝えたりしてきている姿が出てきている。

### 1歳児 1学期 先生がいるよ、大丈夫

新入園のA児は降園まで頻繁に泣く、抱っこも嫌がる、部屋を飛び出して玄関に走る、といった様子が見られ、周囲のことにも興味は示さなかった。同じ保育者が登園時の受け入れをしたり、抱っこをしたり、遊びに誘ったりしていくと、保育室内の玩具に触れて遊ぶ、顔を覚えた保育者へ抱っこを求めるといった姿が見られ始めた。そうしたかかわり続けていき、保育者の膝に座って遊んだり、抱っこをされて園庭を散歩したりする遊び方から、保育者の居場所は確かめながらも、自分でしてみたいと思ったことを見つけ遊びだせるようになっていった。

〈考察〉

- ・1対1でのかかわりを大事にし、そばについたり、様子を見守ったり、子どもの動きや気持ちに寄り添ったかかわりを持つことで、保育者に安心感をもち、本児が遊んだり生活しようとしたりする姿に繋がった。子どもの応えて欲しいことにすぐ応答できる距離感で寄り添うことが安心できると感じる要素になった。
- ・保護者の安心感も、感受性の高い乳児期だからこそ欠かせない人的環境の一つととらえ、子どもとの関係づくりだけではなく、保護者に、日中の様子、前日と違ったことを伝えたり、保護者の不安が和らぐよう、見通しを持てるように話をしたりするようにした。保護者の不安感が和らぐことで、子どもの安心感にもつながった。

同じ保育者がかかわる

一人一人の様子に合わせてゆったりかかわる

A児の安心できる場所に保育者がいる

保護者に姿やできたこと等を送迎時や帳面で伝える



### 【同年齢の友達とのかかわり】

#### 4歳児 2学期 もっと遠くまで動かしたい

トイを繋いでドングリ転がしをして遊んでいた。初めはドングリを転がすことだけを楽しんでいたが、色々な長さのトイを組み合わせて長いコースをつくるようになり、より遠くまでドングリを転がすためにはどうしたらいいかを友達と一緒に考えるようになった。築山の高さを利用し、ビールケースや積み木などで高さを調節しながらコースづくりをしているうちに、トイの角度によってドングリの転がる速さが違うことに気付き、コースの途中でドングリが止まるたびに、「ここは坂じゃないから止まった」「もっと坂にしないとあかん」など自分なりにどうしたらドングリが転がるかを考え、友達に伝えたり、友達の考えを聞いて「じゃあやってみよう」「こうしたらどうかな」「ここ持つてるから、下に台を置いて」と何度も繰り返したりしながら、コースづくりをする姿が見られるようになった。

〈考察〉

- ・いろいろな長さのトイや筒、ビールケース、積み木など、子どもが自分で選べるようにしたことで、いろいろな組み合わせ方を試したり周りの友達がしている様子に目を向けられたりし、遊びが広がり、自分たちで考えてコースづくりをする楽しさが味わえた。
- ・1学期から継続している転がし遊びでそれぞれが経験したことや考えたこと、発見したことを友達に伝え合いながら遊ぶことで、いろいろな方法を試したり、うまくいかなくても繰り返してやってみようとしたりする姿に繋がった。一人ではできなかったことも、友達と一緒にやってみるとできることもあるということに気付くことができた。
- ・保育者が子どものつぶやきを逃さず、周りの友達に知らせたり、一緒に試したりすることで、聞いてもらえた嬉しさを感じることができ、自信をもって自分の考えを言えるようになった。

子ども同士、話し合いながら遊ぶ姿を見守る

友達と一緒に長さや高さを変えて試すことができるように、トイやビールケース、積み木を用意しておく

子どものつぶやきを周りに知らせ、関係をつなぐ

遊びの様子をドキュメントで保護者に伝える



## 【園内での異年齢のかかわり】

### 3歳児 2学期 どうやって作るの？

4歳児がどんぐりの粉をのりで固めて作ったクッキーを、砂場にいた3歳児のところへ自慢気に見せに来ていた。それを見たA児、B児が「なにこれ、カチカチや〜」と興味を持った。4歳児がいなくなった後で「あれ、どうやってするの？してみたい」と保育者に言いに来たため、「ききにいく？」と誘い4歳児がクッキーづくりをしている場まで一緒に行った。4歳児を前にすると何も言えず、「ききたいことがあるんだよね？」と促すと、「どうやってつくるの？」と自分たちで聞くことができた。それを聞いた4歳児も嬉しそうに、「これ(おろし器)でどんぐりを削るの」「そこに糊をまぜて…」と一つ一つの過程を教えてくれた。

翌日から3歳児の保育室前にクッキーづくりの場を用意すると、数人の4歳児が来て、一緒につくりながら教えてくれていた。



保育者が教えてしまうのではなく、異年齢に直接聞きに行くきっかけを作りたい

4歳児に教えてもらいながら遊びを続ける様子を見守る

保育室前で安心して遊べるようにする

#### 〈考察〉

- 4歳児のクッキーを見たことで興味を持ったが、今まで目にしたことがないものであったため作り方が分からなかった。また、その作り方を知りたいと思ったが自分達だけでは作り方を聞きに行くことが難しい様子だった。それまで縦割り活動でかかわることはあったが、普段の遊びでも更に4歳児とかかわりを持つきっかけになると考え、保育者も一緒に行き、自分たちで聞けるように促した。勇気を出して4歳児に声を掛けた後は、興味津々でどんぐりクッキーの作り方を聞いており、そこから3歳児のどんぐりクッキーづくりへとつながっていった。
- 保育室に近い場所に3歳児用のコーナーを用意したことで、興味はあるがまだ4歳児の遊んでいる場までは行けない子の目にも付きやすく、A児、B児以外の子もやってみようとする姿につながった。また、そこへ4歳児が教えに来てくれたことで、安心できる場で新しい遊びを始めることができた。行動範囲が広がり異年齢児とのかかわりが増えているが、まだ3歳児が安心して遊びこむことができる場を確保することも大切だと感じた。

## 【小学生とのかかわり】

### 5歳児 10月 お兄ちゃんたちみたいに優しくしよう

小学2年生のおもちゃランドに遊びに行き、おもちゃの説明を聞いた後、自由にまわりいろいろなおもちゃで遊んだ。遊び方が分からず戸惑っていると小学生が手をひいて「こうやってね」と優しく教えてくれたり、「こっちはすいてますよ」などと声をかけてくれたりした。声をかけてもらうことで安心して次の遊びに向かう姿がみられた。園に帰ってきて振り返りをする時、「お兄ちゃんたち優しくかった」「やり方をおしえてくれた」などと嬉しかった気持ちを話していた。

その後、園内でハローウィンパーティーを5歳児がリズム室で開き、3・4歳児を招待することになると、「この前小学生が優しく話してくれたから、3歳児も怖くないように一緒にいってあげよう」など年下の友達の気持ちに寄り添う姿がみられた。また、小学生がしていたようにスタンプラリーを取り入れ、4歳児に「ここでスタンプおしますよ」と優しく声をかけていた。

#### 〈考察〉

- 小学生との交流で、年上の友達から困っている時に助けてもらった、優しくしてもらったりする経験をした。振り返りの時間をとったことで嬉しかったことを共有し、自分たちも年下の子にしてあげたいという気持ちができた。そうした姿を保育者間で共有し、5歳児が遊びを進める機会を作ることにした。パーティーをすると年下の子に顔を近づけ優しく声をかけるなど寄り添う姿がみられた。
- スタンプラリー等、小学生と交流したことが刺激になって取り入れたものがあった。自分たちの知らないことを知る機会になったり、やってみようとする姿につながったりして、小学生への憧れの気持ちが出てきていた。それを見逃さず、実現できる機会を整え

小学校の教員と事前に打ち合わせをして共通理解しておく

感じたことを伝え、友達と思いを共有できる場を作る

今回の経験を保育者間で共有し、5歳児が遊びを進められる機会を作る

パーティーの準備をする中で小さい友達の思いに寄り添う姿や小学生のようにやってみようとする姿を認める



ることも5歳児には必要だと感じた。

### 【地域の人とのかかわり】

2歳児 11月 葉っぱがいっぱい！

園庭に落ちていた葉っぱに興味を示し、形や色を見たり、ごちそうの上に乗せたりする姿があった。落ち葉やドングリ等の自然物に触れて遊んでほしいと思い、シルバーさんに掃除する際、落ち葉を集めてもらうことにした。それをブルーシートに広げ、落ち葉の上に乗ったり、散らしたりして遊んだ。登園した時や遊びの合間にシルバーさんが落ち葉を集めている様子を見て「何してるの？」と聞く子どももおり、遊びに使う葉っぱだとわかると嬉しそうな顔をしたり、一緒に落ち葉を拾ったりすることがあった。シルバーさんも遊ぶ様子を見て伸び伸びとした姿に驚きながらも「楽しそうですね」と伝えてくれた。その後もたくさん落ち葉を集めてくれ、一緒に遊びの場を作っていく機会になった。



何にどうして落ち葉を使うのかをシルバーさんに伝える

遊びや生活にかかわっている人の存在を知ってほしい

遊びの様子をドキュメントで保護者に伝える

〈考察〉

- ・身近な人に落ち葉を集めてもらったことで遊ぶ機会を持つことができ、2歳児なりにいろいろな人が自分たちにかかわっていることを感じられた。ただ落ち葉を集めてもらうだけでなく、そのことを子どもに伝えたり、一緒に活動したりしたことで自分たちの周りにいる人に興味を持つことにつながっていくことができた。
- ・普段から子どもたちの姿に目を配ってくれているシルバーさんだったからこそ、遊びの様子を見てもらえたり、どのように使うか理解してもらいやすかったりすることができた。保護者だけでなく、地域の人やかかわってくださるいろいろな人に対しても遊びや生活等の日々の姿を知らせていくことも大切だと感じた。

## 5. 研究の成果

子どもたちが様々な人とのかかわり、またそれを意識して保育者が援助や環境構成を行うことで生き生きと活動する姿につながっていくことがわかった。

乳児期は保育者のかかわりの影響が大きく、信頼関係を築いていくことで安定して生活を送れるようになる。個々に合わせて、特定の保育者がかかわることで生理的な欲求や不安な思いを受け止めることができ、遊んでみようとする姿につながった。信頼関係を築いた上で、子どもの安心できる距離を保ち一緒に遊んだり見守ったりしたことも効果的だった。また、保護者の安心も子どもの生活の安定に大きく影響し、園での姿を伝える大切さを改めて再認識した。

安心した園生活を重ねてきて、個々に発達を捉え援助していく中で同年齢の友達と遊び他児のしていることや持っているものへ視野が広がり、興味や刺激を受け、遊びを展開していった。また異年齢や地域の人と関わる中で同年齢集団の中では見られにくい子どもにとって新奇的なものがきっかけとなり、自分の生活や遊びに取り入れる姿がみられた。このように人とのかかわる機会を持つだけでなくやってみようという主体性や自主性を育て、活動を楽しく豊かに展開していくためには環境をどのように構成していくかが重要である。

## 6. 今後の課題

- ・乳児では保育者とかかわりを通し、自分から遊んでみようとする力がつき、周りの人への興味も広がってきている。その姿をもとに、興味を持って繰り返し遊びに取り組んでいけるような環境構成を考えていきたい。
- ・保育者とかかわりが安心した園生活につながっていき、どの年齢でも保育者とかかわりは重要だと言える。今回抽出しなかった年齢での保育者とかかわりや意識する点を考え、かかわっていきたい。
- ・以上2点に対して、保育者間で振り返ったり意見を交わしたりすることが必要である。ドキュメント等の記録を利用し、子どもの姿や活動の進め方について理解を深めていくようにしたい。
- ・地域の人にも遊びや生活の姿を知らせ、地域の力も借りながら保育内容を充実させていきたい。